

# 北部地域総合公共交通検討会

## 中間とりまとめ



— 目 次 —

□はじめに	
□第1章 北近畿タンゴ鉄道（KTR）の経緯	1
1 宮福線	
2 宮津線	
3 北近畿タンゴ鉄道株式会社へ	
□第2章 現状と取組	2
1 利用者の現状	2
(1) 利用動向（利用者数の推移、利用実態）	
(2) 広域からの利用動向	
(3) 運行状況	
(4) 運賃	
2 KTRの現状と取組	8
(1) 営業路線及び駅	
(2) 設備の状況	
(3) 経営状況	
(4) 人員体制	
3 沿線自治体の取組	13
(1) 沿線における利用促進	
(2) 沿線自治体による駅舎の管理	
(3) 地域振興（まちづくり）とKTR	
□第3章 ティームKTRからの提案	19
1 ティームKTRの結成	19
2 ティームKTR（専門家によるティーム）からの提案	19
(1) 安全・安心・快適策	
(2) 集客・増客策	
(3) 経営策	
3 地域からの提案	20
□第4章 検討の視点	21
1 KTR存続の必要性	21
2 周辺状況の変化	22
3 めざすべき将来像	23
(1) 便利で魅力的で乗りたくなる、地域の人々・企業から必要とされる鉄道へ	
(2) 信頼される経営を進める企業体質の実現	
(3) 地域全体で支える仕組み、機運の醸成	
(4) KTR（鉄道・駅）を核としたまちづくり	

(5) 全国の人たちが「北近畿（沿線）」に足を運ぼう」という地域・鉄道へ

□第5章 愛される KTR へ向けての抜本的改革	・ ・ ・ ・ ・ 26
1 経営改善対策	・ ・ ・ ・ ・ 26
(1) 経営体制	
(2) 収支構造改革	
(3) 社内改革	
2 安全安心対策	・ ・ ・ ・ ・ 34
(1) 線路・電路	
(2) 車両	
3 増客・集客対策	・ ・ ・ ・ ・ 37
(1) ダイヤ	
(2) KTR を中心としたまちづくりの推進	
(3) 広報・宣伝・イベント開催	
(4) 地域との協働	
4 最後に	・ ・ ・ ・ ・ 42

参 考

卷末資料

## □ はじめに

「北部地域総合公共交通検討会」は、北近畿タンゴ鉄道（KTR）を中心として京都府及び兵庫県の北部地域における地域振興及び地域住民の生活に係る移動手段の確保や、域外の観光客等の利便性の更なる向上を推進するために、昨年4月以来5回の会議を開催し、総合的な公共交通のあり方を検討して参りました。

御承知のように少子高齢化の影響、道路網の整備、モータリゼーションの一層の進展などにより、全国のローカル鉄道はたいへん厳しい経営環境にあり、KTRにおいても例外ではなく、利用者及び運輸収入ともピーク時の約3分の2まで減少しており、極めて深刻な状況にあります。

こうした中、「北部地域総合公共交通検討会」において、地域におけるKTRの役割、あるべき姿について、委員の皆様方から専門的見地を踏まえた御助言をいただき、関係自治体の皆様とともに、維持発展できるように御協議いただいたところです。

KTRが、この地域の住民の足として、またこの地域で盛んな機械金属工業や織物業などのビジネス利用、そして天橋立や伊根、山陰海岸ジオパークなどの観光地と都市部を結ぶネットワークの基軸として存続するためには、地域と一体になり、地域に愛される存在となること、そして全社的に危機感を持って業務に取り組むことが不可欠です。そのためには、経営改革をはじめ社内における自助努力が目に見える形で進むことと、安全をしっかりと確保しながらダイヤ・車両などサービスを改善することが必要であります。また、利用者の増加、収入回復のため、これまでともすれば軽視されがちだった広域的で積極的な集客を図るべく、外部専門家集団「ティームKTR」から提案を受け、こういった内容も踏まえながらご議論をいただき、中間的なとりまとめとしたところです。

本とりまとめを基に、今後はKTRにおいて積極的な構造改革に取り組み、安全安心のための設備更新や増客増収対策が行われ、駅毎で、利用者の目線にたって何ができるか、真剣に考え、地域あげての取組を行っていく必要があると考えております。

そのためには鉄道会社であるKTRのみならず、京都府や兵庫県を始め、沿線市町においても、この提案内容を基に、スピード感を持って、具体的なアクションを起こされることを期待するものです。

平成24年9月11日

北部地域総合公共交通検討会  
座長 正司 健一  
(神戸大学大学院教授)